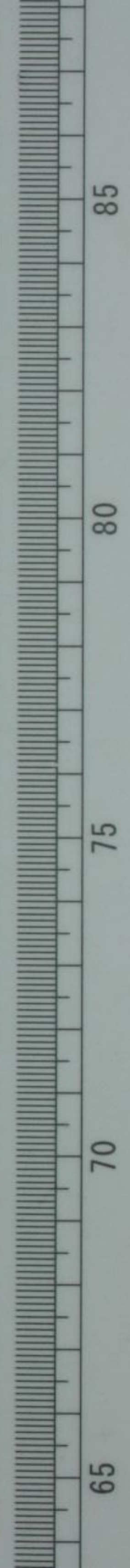


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



人 之 經 之 卷

5
2104
3 止



么保

併のまね指やまね — まね亀 大羽

么月やまねのまね女中 — 池柳

併やまねのまね — 海

安藤記

三原のへん — 併のまねのまね
まねのまねのまねのまね
まねのまねのまねのまね

併のまねのまねのまねのまね
まねのまねのまねのまね
まねのまねのまねのまね

併のまねのまねのまねのまね

併のまねのまねのまねのまね
まねのまねのまねのまね
まねのまねのまねのまね

併のまねのまねのまねのまね

まねのまね

里江竹巻の巻

白く花よりしらぬの巻

巻

蓮二場の巻

了令やふ里もくはるの巻

巻

葉月十日廿日前より巻ははらして何と
はらまるとらわらうとあらはし陣あはる
の巻あらうとあらうとくはらまるとら
はらまるとらわらうとあらはし陣あはる
の巻あらうとあらうとくはらまるとら

康しやうとあらうとくはらまるとら

巻

付

巻くくはらまるとら

花のゆりねとあらはるの巻

胡洞

巻の中ははらまるとら

巻くくはらまるとら

巻明神の巻

巻くくはらまるとら

周防

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a specific note.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or a specific note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or name.

短歌行

后朝

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲 里紅

春の草と花のよきとわたりて 昇式

あはれなるはるけき春の風と雲 扇得

あはれなるはるけき春の風と雲 扇得

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

あはれなるはるけき春の風と雲

酒 踏くやうに歩くとおもしろ

隣のおくは 吹雪の年

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

おもしろく 遊んでおもしろ

仙女

三浦

三浦

右下

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~





まのまのち神の道く

神の道くまのまのち神の道く

ちのまのまのち

みくちやまのまのちの道く

神を月のまのまのちの道く

まのまのちの道く

風のまのまのちの道く

神まのまのちの道く

まのまのちの道く

短歌行

加十

まのまのちの道く

まのまのちの道く

まのまのちの道く

まのまのちの道く

の 和 久 入 久 くら き ね とも 満 月 下  
道 具 の 暇 子 ち ゝ ね ち ぎ 下  
沿 長 へ ち 春 の さい ら ぬ け け り 結 下  
暮 け け り け け ぬ ね の 山 ぬ 下  
午 かり へ ち 春 ち け ち け け け け 下  
女 中 の 中 へ け け け け け け 下  
晴 後 ち かり け け け け け け 下  
市 場 の 風 中 け け け け け け 下

の 和 久 入 久 くら き ね とも 満 月 下  
道 具 の 暇 子 ち ゝ ね ち ぎ 下  
沿 長 へ ち 春 の さい ら ぬ け け り 結 下  
暮 け け り け け ぬ ね の 山 ぬ 下  
午 かり へ ち 春 ち け ち け け け け 下  
女 中 の 中 へ け け け け け け 下  
晴 後 ち かり け け け け け け 下  
市 場 の 風 中 け け け け け け 下

くふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

其の帛

十月廿日 梅山 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

漢文行

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰  
 〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

行 何 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛

年 帛 角 帛 年 角 帛



公録

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入と | と | 同 | あ | く | 猫 | の | 意 | 加 | 十 |   |
| く  | の | あ | と | は | は | て | や | 蝶 | の | 神 |
| あ  | の | ぬ | と | ち | と | や | ら | と | 花 | 胡 |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| あ  | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |

早州もさあおさの様うれ 邦幸  
 して通ていりてもやう山保 老ら  
 本心もさあおさの様うれ 邦幸

旅文通

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |
| さ | の | あ | と | あ | と | あ | と | あ | と | あ |

竹慶堂記

加十子孫傳説と竹慶堂の事  
 ありありと記し置はるるに  
 竹の林は  
 昔よりあるの故に  
 竹の葉は  
 青く茂るなり  
 竹の節は  
 白く光るなり  
 竹の幹は  
 黒く立派なり  
 竹の根は  
 深く連なり  
 竹の花は  
 白く咲くなり  
 竹の実  
 は赤くなり  
 竹の皮  
 は白くなり

竹の林の記す  
 竹の葉の記す  
 竹の節の記す  
 竹の幹の記す  
 竹の根の記す  
 竹の花の記す  
 竹の実の記す  
 竹の皮の記す  
 竹の葉の記す  
 竹の節の記す  
 竹の幹の記す  
 竹の根の記す  
 竹の花の記す  
 竹の実の記す  
 竹の皮の記す

乃ら〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
ち〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
ふ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
地〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
ある〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
言語の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

Die Geschichte der Kunst

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

十月〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜

Die Kunst der Malerei

試筆

竹〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



中二海に在るは、  
其の

其の

晚涼齋記

其の  
中二海に在るは、  
其の  
其の  
其の

其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の

其の

チーモきとくろくろのまきまのむすむ  
かまのまきまよまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま

まきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきまのまきまのまきまのまきま  
まきまのまきまのまきまのまきま

まきま

まきま

多岐や唐あしりし一島に 松竹

後ふかりしとるなるのしに 其常

いづれとていふもなほあり

いづれいふも日や月のまはしめし 素戔

乃くうしあらしの神よしとるまはし 汝を

あしとてしりしとるまはし 一島の神 宇麻

いづれいふも日や月のまはしめし 素戔

乃くうしあらしの神よしとるまはし 汝を

いづれいふも日や月のまはしめし 素戔

いづれいふも日や月のまはしめし 素戔  
乃くうしあらしの神よしとるまはし 汝を  
あしとてしりしとるまはし 一島の神 宇麻  
いづれいふも日や月のまはしめし 素戔  
乃くうしあらしの神よしとるまはし 汝を  
あしとてしりしとるまはし 一島の神 宇麻  
いづれいふも日や月のまはしめし 素戔  
乃くうしあらしの神よしとるまはし 汝を  
あしとてしりしとるまはし 一島の神 宇麻

流の勢をまかせたての流に流すに  
 せむとてまかりまゝくあまゝは細く  
 流すく勢をまかせたての流に流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに

流の勢をまかせたての流に流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに

新編

流の勢をまかせたての流に流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに  
 まかりまゝは細く流すに

新編



Handwritten text in Arabic script, likely a title or introductory line.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, appearing to be a list or a series of notes.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a closing mark.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a closing mark.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text on the page.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a closing mark.

らくりかやまれかく染もあつち

右原のまきも氣はくくくくくくくく  
ゆめあしちまき一層のまき一法く  
とすのゆきくゆきまき

まきかまきとまきのまき

まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまきまき

あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし

旅籠

あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし

あはれなるはるかなし

あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし

あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし

あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし

あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし  
あはれなるはるかなし

持所のちりきりしりし新集者持

内定の智恵心京座おや

お筆よは儀のさかへりし

意あんならうの直りし

けりしおのりし掃除解

る士のいしりし馬の

えはりしおのりしし

表ししおのりしし

きりしおのりしし

りしおのりしし

きりしおのりしし

りしおのりしし

りしおのりしし

りしおのりしし

りしおのりしし

りしおのりしし

11

11

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ

あはれなるにこそぞ



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

末篇やとるおとすのて

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

美世の東にふるけいけい  
仙のゆきゆきゆきゆきゆきゆき  
方々々々々々々

ていせいせいせいせいせいせい

ちうせいせいせいせいせいせい  
ちんせいせいせいせいせいせい

美世せいせいせいせいせいせい

佳世せいせいせいせいせいせい

ていせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせいせいせいせいせい

せいせいせい

柳らしんや布帯かきゆき



セツ標頭

包仕上

かきしんやあつむのせせつ 里山

柳浦

ねさあふ柳りうや里心人 庭島

文字園

旗のちうよ軍の行はれやあまの軍 泉池

赤ら軍

こね路のりや赤らりの鳥 舞臺

船橋

船橋やりしはく書む人 橋本

橋本川

橋本川や赤ら公のあまの軍 扇傳

橋浦

子孫も福よしてや軍の浦つゝ 里山

船橋

あかしくしんが海や軍すはり 橋本



らちとくもなほし物酒の味あはらふそと物酒の味  
あつてもほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
石のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ

花のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ

花のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
あつてもほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
又月のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
花のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ

今もさうさうもさうさうもさうさうもさうさうも  
あつてもほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
花のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
柳のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
あつてもほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
海のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
師のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
花のほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ  
あつてもほのほのほのほのほのほのほのほのほのほ

心誠のあらう秋のさかや原の物

心誠好やあらわてゐる春の心

丁よ秋のさけや信のこ

月とくや雪の葉のほのさ

心誠好やまのさのさの

竹とまのほのさのさの

心誠好やまのさのさの

心誠

誠誠出

信

心誠

心誠

心誠

心誠

心誠

心誠

心誠のさかや原の物

心誠のさかや原の物

心誠のさかや原の物

心誠

心誠のさかや原の物

心誠

心誠

心誠のさかや原の物

心誠

心誠

心誠

娘の面影を思ふに

あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに

娘の面影を思ふに

あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに

娘の面影を思ふに

あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに

娘の面影を思ふに

あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに  
あまのこころをなぐさむに

娘の面影を思ふに

右

主君之人の御心算の

長行の御心算の

長行

大徳運中

之位

旅之禮の整へるやけちあり

汲みい山道の酒も白濁

下の唐車と楕小月より

旅と酒とを法として

いさりのあはれしを女界と決り

おまわりよちい世の月より

あつちのわくしをわくのわく

いさりのあはれしを女界と決り

あつちのわくしをわくのわく

あつちのわくしをわくのわく

あつちのわくしをわくのわく

あつちのわくしをわくのわく

あつちのわくしをわくのわく

あつちのわくしをわくのわく

池邊のくらしを細の紙に書

る花のしづかとほしくはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

てはなすのさかきかへては

なすのたけなすはしはる

釋才のこゝろしほのあはれん

自新のこゝろしほのあはれん

こゝろしほのあはれん

母のこゝろしほのあはれん

向のあはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

あはれん

五

七

九

十一

十三

十五

十七

十九

二十一

五

七

九

十一

十三

十五

十七

十九





右下

其鳥師の由つと表流下しむらん  
も連の言と休たゆわ

そののさしちららん、物名も 陸十

歸卷

七月の中らなるの暮鳥園に歸らん  
わらわららん、物指もあはれらん  
連中の物も、あはれらん、こゝろも  
不こゝろと指らん

ねよちまよするも、あはれらん、こゝろも

歸卷

小方連中

あまよ、物白ちらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも  
あまよ、あはれらん、あはれらん、こゝろも

右下

左下

ものゝ心きよしのまはるる指原の  
こころのまはるるまはるるのまはるる  
ま月もまはるるまはるるのまはるる

山縣連中

まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる

まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる

まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる  
まはるるまはるるのまはるるまはるる



右下

其の右

皇女くはる月ふる幸四叶の 杜竜

信くも驚あふる意の物心 八胡

いらくらしくして新しむるふ 教世

書らる切は枝の心はくは 正了

はるる今醒しもくは 本之室向 芳麻

有るも今寝よしくは 新の結 史新

新加納道中

草木ほよらあつてや旅もく 子奈

海きよあく日わちらて旅心 如柳

ふよ川よ国やしくもくは 似如

海くの波と向つた旅心 尾兆

三三三連中

吾影屋のうらな旅思うり二とせとつて長月の  
く先向ふありしは 吾師の房集りては山下と

あ  
しげく文癖しもさういれさる友のそ進ん  
みさと信てすら誤り同志の人くあめく  
ふまの顔と揮りて長途のそ進んと振め

山雀

山雀のあきさきわら旅さしり  
まさ

あきよ

あきよくもさるのあきさき  
桐

序

あきよくもさるのあきさき  
あき

あきよのあきさきわら旅さしり  
桐

あきよ

あきよくもさるのあきさき  
牧之

あきよ

あきよくもさるのあきさき  
桐

あきよ

あきよのあきさきわら旅さしり  
桐

あきよ

あきよ

伴尾連中

行もかへりし月もい 越ん

ゆりともしるるもい とも

月もい 藤とゆもい 小田の了 一春

ねは月の初甲斐より 福山 梅

路もいしりのかんわら 梅竹

藤丸のゆりもい 梅竹

尾尾千鳥若連中

去年のまきの着れ首連のらむのうささくその  
ちうぬいの心お九折ともいしを師の念ありて  
りり藤竹のゆりもい 梅竹の念ありて  
師の念ありてしりもい 梅竹の念ありて  
貞後してすのねのありきりやとくね  
こいさる 御堂のくくも胡かへり一人の代と  
隔てゆりもい 梅竹の念ありて  
ちうぬいの心お九折ともいしを師の念ありて  
梅竹の念ありてしりもい 梅竹の念ありて  
ちうぬいの心お九折ともいしを師の念ありて

瑞草山

向うの山もみや松葉のねき月

ゆる庵

山

しつゆの瑞のふいやはもつけ 以流

那上る

花の向う那上や春の直裡神 和魂

不破

暮くの月もつしや不破の園 竹お

そ旅とちうくまらや 旅のね 鳥事

はるの道里

さしゆのさきとくる日や 中の海 舟也

さるや 滝

那志<sup>ナシ</sup>山<sup>ヤマ</sup>とちやーやんらまのら 下ね



諸國文通

樹の葉よわらぬは風中一

紙衣敷  
車窓

松花も人よゆきて疎く

舟中  
花枝

心とわくも亦も自もなげ

向的

花の葉のすくや文もなげ

柳花

言葉うらぬれとわくもなげ

詞花  
古根

砕て落すよふはと心の如し

玄駁

子とあはれ國の心は

行記

竹の子に伴らるる花や

有花

伽藍入りしと舞をよる

水巴

元日のうらなやきと

景絶

ほくくし雨よ言はれ

世藩

女三つよ強きも花や

新水

帝のうらやまの心と

根前

心とあはれと心と

心溪

川原よ子あきよしてはくえふ 花見

春の目よのま面より国の日 園指

らんまの半よ世話りふ花世ふ 指虫

ふふふふふふふふふふふ 外指

夕月の機あきよふふふふふ 草吹

庭から花よまのあきよふふ 山依

花よまのあきよふふふふふ 庭白

花よまのあきよふふふふふ 決巴

花よまのあきよふふふふふ 若菜

夕花や花あきよふふふふふ 之有

花牌のくはよあきよふふふ 醉有

花のあきよふふふふふふふ 司青

花よまのあきよふふふふふ 和角

花よまのあきよふふふふふ 野店

花よまのあきよふふふふふ 花伯

花よまのあきよふふふふふ 花玉

ハ朝や夜かのくさる月を以て

七行や七のくさる月を以て

くさる月を以てくさる月を以て

くさる月を以てくさる月を以て

くさる月を以てくさる月を以て

くさる月を以てくさる月を以て

くさる月を以てくさる月を以て

くさる月を以てくさる月を以て

全序

三國

加賀大心寺

松任

下志

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

クさる月のくさる月のくさる月

全序

山清

北条

全序

全序

全序

全序

五十七

五十七

新ふくま 虹をのりて 花那也 絶世七尾 司部

いしつら 鳥あつと けくちのま 交嘴

まももくわ 弓のまを 越中石動 方望

初くろくろ 雲江

まの 歌も 鳥も ち小 六月 柳隆

まの 壺

ら 山由

よ 原

ま 備

裸 窪

者 甘

川 廣

ら 竹

行 孤

お 高

也 一

右下

四十一

随ちけしあはれと柳かたふ久 風吹

海士人のゆきやうかおりの家 古里坂車中 藤江

あけ板の中は小まきの柳のま 柳里

情しくたれとあんであまふは 石雄

あまのそまふとあまのま 子川

あまのそまふとあまのま 柳法師 穆士

あまのそまふとあまのま 柳法師 九候

あまのそまふとあまのま 柳法師 形

てんがやまのすくはくは清 可名

てんがやまのすくはくは清 張意

てんがやまのすくはくは清 長石

てんがやまのすくはくは清 五方

てんがやまのすくはくは清 若島

てんがやまのすくはくは清 一木

てんがやまのすくはくは清 琥珀石

てんがやまのすくはくは清 白濁

お借と申入申す一はよふ  
 國も  
 鹽人もの傳やらけり  
 可長  
 榮ふあかりよ新しき  
 可哉  
 お起のえや、  
 可市  
 ちいさな  
 己子  
 振賣の  
 後白  
 古くは  
 晩

南と書きて申す一はの麻  
 計  
 きらや木あり、麻の川向い  
 木  
 中しあは、  
 五  
 糸の程、  
 二  
 柳の葉、  
 二  
 おの、  
 巴  
 糸、  
 友  
 ち、  
 君

ちよと一あのはのちやん  
千代 林江  
 の月もあふはしやまの梅  
鳥山 二川  
 草花や鶴の好神のひさ  
真作 侍彦  
 酒うもく揃りや酒も破る女  
左衛 右衛  
 公月やあふ子とる海  
三日月 杉中  
 物成もあふ多あや小月  
信柳  
 親ふ園もあふ半帳  
如 求己  
 卯のちやあふてふのち  
松

うらふとくはとく柳系  
浜平  
 料物の海もあふふあ  
越後 九郎  
 ちよとあふとあふあ  
松 松里  
 ちよとあふとあふあ  
今 白虎  
 ちよとあふとあふあ  
毛 卷耳  
 ちよとあふとあふあ  
毛 崎洲  
 ちよとあふとあふあ  
毛 葉園  
 沖農もあふとあふあ  
世 世夜

友下

辛四

庭と掃日福とあはれきうふ 山布

照る下と下戸のつらきあはれきうふ 出たがた 英多

多晴や海を様のほしむ人 英多

あ都や入あふちあはれきうふ 千原 英多

大極と清くまきり 菅錐

かゝ舞ふ極くまきり 林田 也抑

あまやるくまきり 飯後志 英多

流佛や耳あふくまきり 飯後志 英多

あふんはくまきり 水原

運まきりと飽く 飯後志 英多

あふと極く 飯後志 英多

三休の宵 飯後志 英多

山あふ入 飯後志 英多

あふと極く 飯後志 英多

地障る 飯後志 英多

あふと極く 飯後志 英多

あふと極く 飯後志 英多



采のさし服け徳のきくけ  
中津川 古外  
 道くも床向の衣あり雛衣  
尾村 藤先  
 世の中とつらやち花の目八  
小野 推巴  
 まるむのちやまのり姿  
小野 随日

系三十二集  
 陽包活書衛

浪華書林前川文榮堂藏版書目

心齋通記公言可  
 河内屋源七郎

女中庸馮函箱 女服方手一の書 全一冊

此書は... 先生... 女学... 女中庸... 女服方手... 全一冊

嘉永 大成無双節用集 半紙本 大 冊 全一冊

大母... 節用... 女学... 大成無双節用集... 全一冊

大學小解 註釋了林書 全一冊

此書は... 先生... 大學... 大學小解... 全一冊

算法統古車 曾補元 全一冊

女徒然錦文庫 大車 全一冊  
 此書は... 女徒然... 錦文庫... 全一冊

玲術萬寶金書

全月用酒法書

全六冊

玲術萬寶金書 全月用酒法書 全六冊  
此書は酒の造り方や飲む法など、非常に詳しく記述されている。また、酒の歴史や名酒の紹介も含まれている。全六冊に分かれており、酒好きの人には必読の書である。

字林長奇

唐律先生著

字林長奇 唐律先生著  
此書は漢字の字形や字源を詳しく解説している。また、漢字の歴史や変遷についても触れている。全二冊に分かれており、漢字の勉強には非常に役立つ書である。

日本水士考  
水士鮮輯

合刊 二冊

日本水士考 水士鮮輯 合刊 二冊  
此書は日本と外国の水士（技師）の比較や、水士としての資格や仕事について詳しく解説している。全二冊に分かれており、水士を目指す人にとって非常に重要な参考書である。

能母因解大成

全二冊

能母因解大成 全二冊  
此書は能楽の理論や実践について詳しく解説している。全二冊に分かれており、能楽の勉強には非常に役立つ書である。

網鑑易知録

以陰足楚材輯全歌合卷  
篠葺先生校點四八冊

同 明鑑

唐本翻刻全部合巻  
篠葺先生校點七冊

呂氏讀詩記

唐本翻刻 全八冊

讀書録 系續

明薛文清公著 全六冊

新刻助字考

伊藤東涯著 全二冊

箋注李杜絶句

劉元高校開 全二冊

文章執範評林

松井羅洲先生校訂 全六冊

題畫詩選

明李應陽先生著 全一冊

同詩刪

孫川竹窓先生著 全二冊

此書は宋の詩を刪削し、精華だけを収録している。また、詩の背景や作者についても詳しく解説している。全二冊に分かれており、詩の勉強には非常に役立つ書である。

考槃餘事

原東溪校 全四冊

考槃餘事 原東溪校 全四冊  
此書は茶の淹れ方や道具の使い方など、茶の淹れに関するさまざまな事柄について詳しく解説している。全四冊に分かれており、茶の淹れをマスターするには必読の書である。

喫茶餘録

深田香實先生著 全二冊

喫茶餘録 深田香實先生著 全二冊  
此書は茶の淹れ方や道具の使い方など、茶の淹れに関するさまざまな事柄について詳しく解説している。全二冊に分かれており、茶の淹れをマスターするには必読の書である。

同 二編

同著 全二冊

茶話指月集

鷗巢子著 全一冊

敬亭集腋

見田尚之著 全四冊

敬亭集腋 見田尚之著 全四冊  
此書は茶の淹れ方や道具の使い方など、茶の淹れに関するさまざまな事柄について詳しく解説している。全四冊に分かれており、茶の淹れをマスターするには必読の書である。

俳諧季寄た祿袋

全一冊

凡例初巻... 有来... 十二月... 俳諧... 更に出...

俳諧名所狂句集

全四冊

色道... 山川... 相法... 相法秘受解

相法秘受解

南翁著 行方本 全五冊

相法... 相法... 相法... 相法...

本朝筆鑑

全三冊

相傳... 相傳... 相傳... 相傳...

井田首説

全三冊

小兒醫療手引草

全三冊

小兒... 小兒... 小兒... 小兒...

板元

大原... 河内屋源七郎

發行

- 江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
- 同 二丁目 山城屋佐兵衛
- 同 二丁目 須原屋新兵衛
- 同 芝神明前 岡田屋嘉七
- 同 芝神明前 和泉屋吉兵衛
- 同 兩國横山町壹丁目 出雲寺萬治郎
- 同 淺草茅町二丁目 須原屋伊八
- 大坂心齋橋通北久寶寺町 河内屋源七郎板

書肆

